

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-8680  
 住 所 東京都中央区京橋1-15-1  
 氏 名 味の素株式会社 印  
 取締役社長 伊藤 雅俊  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区鈴木町1-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の種類	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	醤油食用アミノ酸製造・うま味調味料製造・その他調味料製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	65,274	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t - CO <sub>2</sub>
連 絡 先	担当部署	担 当 部 署 名	総務・エリア管理部 安全・環境グループ
		所 在 地	川崎市川崎区鈴木町1-1
		電話番号	0 4 4 - 2 3 3 - 0 3 2 2
		F A X 番号	0 4 4 - 2 4 5 - 1 5 3 8
		メールアドレス	
受付欄		事業者番号	
		特記事項	

(第2面)

計 画 期 間	平成22年度 ~ 平成24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	主要生産設備においては管理標準に基づき管理の徹底を行こと、および事務所等については空調、照明、事務用機器の管理や高効率照明への順次更新を中心として排出量の抑制を図る。 ・ 主要設備の計画的な保守点検の実施およびエネルギーの使用実績の解析に基づく改善の実施。 ・ 冷暖房の設定温度の推奨値への変更 ・ 高効率照明器具への順次更新、不使用時の消灯の徹底など 詳細は、指針様式第1号(第4、5面)のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	・ グループ企業や他社との共同配送およびモーダルシフトの推進 詳細は、指針様式第1号(第6面)のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	・ 製造工程で発生する植物性残渣の有効利用 ・ 廃棄物の減量化・分別化の推進、有効利用促進 ・ 「エコ運搬」の協力要請 詳細は、指針様式第1号(第6面)のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。 <a href="http://www.ajinomoto.co.jp/company/kankyo/">http://www.ajinomoto.co.jp/company/kankyo/</a>

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 のある欄は、該当する 内にレ印を記載してください。  
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

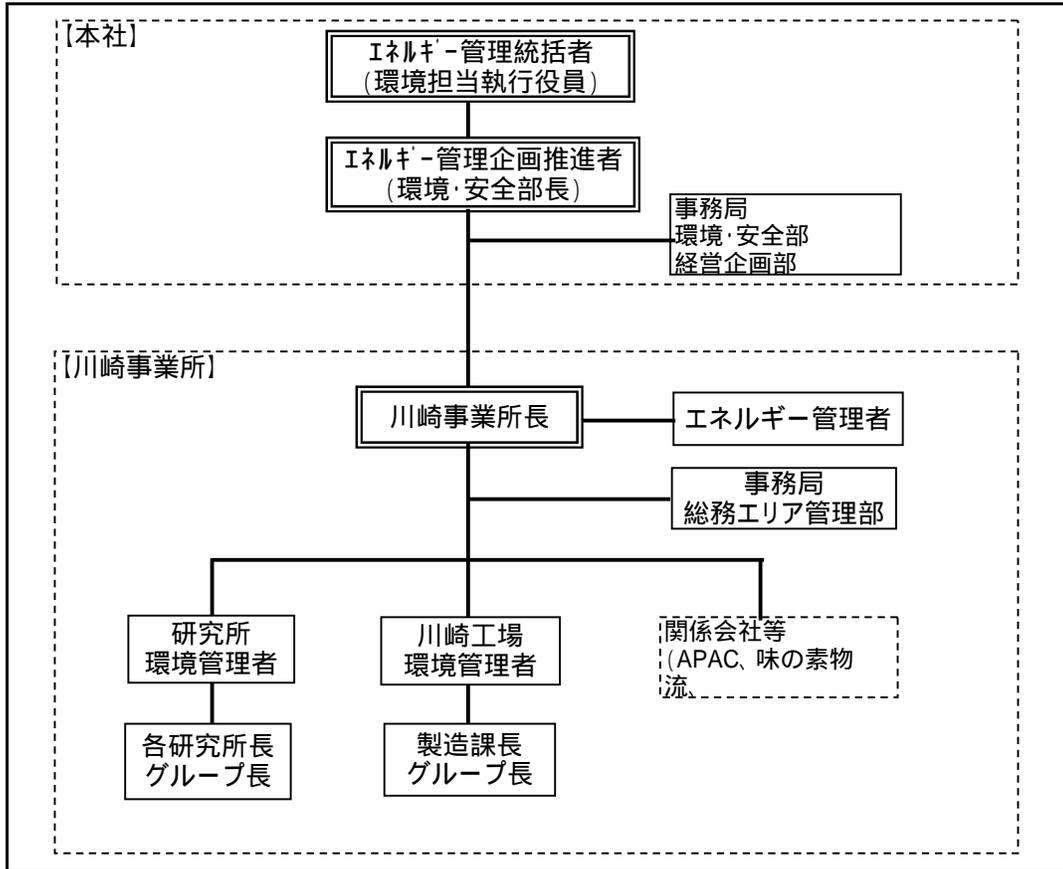
### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

**【全社基本方針】**  
 「いのちのために」「ライフサイクル全体で」  
 事業を通じて持続可能な地球環境とよりよい社会の実現に貢献する。  
 地球環境に負荷をかけず生産にし、持続的に資源を調達する。  
 商品、サービス、情報を通して持続可能な社会システムや生活スタイルの構築に貢献する。

**【重点テーマ】**  
 「地球とともに (Business to Nature)」の視点で取り組む  
 ・持続可能な原材料調達  
 ・自らの事業活動に伴う環境負荷の削減  
 「社会とともに (Business to Society)」の視点で取り組む  
 ・事業・商品・サービスを通じた社会・環境への貢献  
 ・「CO2本位制」を見据えたビジネス構築  
 ・情報発信、社会コミュニケーション、社会との協働の推進  
 全社ゼロエミッション目標を設定し取り組み中

**【川崎事業所方針】**  
 ・全社ゼロエミ目標にそって事業所目標を設定し取り組む  
 ・ISO14001をベースとしたEMS運用の定着  
 (ISO14001 認証登録日2001年3月)

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



## 3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等(第1号、第2号、第4号該当者等)

## (1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

## ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成 21 年度	目標年度	平成 24 年度
基準排出量	(実) 106,064 (調) 106,050 t-CO <sub>2</sub>	目標排出量	(実) 102,882 t-CO <sub>2</sub>
削減率	(実) 3.0 %	削減量	(実) 3,182 t-CO <sub>2</sub>

## イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	生産数量	単 位	tCO <sub>2</sub> /千ト
基準年度の値	835.8	目標年度の値	810.7
削減率	3.0 %		
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由	生産数量使用		

## ウ 目標設定に関する考え方

<p>温室効果ガスの排出量削減を図るため、排出量を年1%以上削減することを前提に目標を設定した。</p> <p>2008年から2010年の3年間、川崎工場では省エネプロジェクトを展開し2009年度は前年度比18%の削減した。この大幅な削減を実現した2009年度を基準にさらに3年間で3%の削減を目指す。</p> <p>2010年度は、省エネプロジェクトの最終年度として各職場の未実施案件の実施を進める。2011年以降については各職場毎に1%以上の削減目標を設定し取組みを継続する。</p> <p>なお、2010年4月より創薬研究所は味の素製薬として分社化されたため、基準年度と計画年度実績の比較を容易にするために、基準年度の2009年度実績からは創薬研究所分を除いた。</p>
--

## (2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標(全社目標)

<p>&lt;全社目標&gt;</p> <p>味の素グループでは、環境保全の観点からゼロエミ目標を設定し取り組んできた。目標は排出量および原単位からなっており2010年度が最終年度であるが、目標達成の見込みである。</p> <p>1) 生産系事業場 C02排出量は2003年実績値以下、排出量原単位は2002年度比20%削減</p> <p>2) 非生産系事業場 2006年度比5%削減</p> <p>2011年度からは新たな3ヵ年目標を設定し取り組むことになっており、年1%の原単位改善をC02削減目標としている。</p>
---

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第1号、第2号、第4号該当者等)</p>	<p>主要設備の保守管理                  主要設備の管理標準の定期的な見直し、徹底を行う。                  燃焼設備、熱利用設備、ｽｰﾎﾟﾝｸﾞ、昇降機、事務用機器、給湯設備等                  の定期的な保守点検を実施する。                  エネルギーの使用量の分析                  生産設備のエネルギー使用量の分析を行い、その結果に基づき改善策を                  検討し必要な対策を実施する。                  事務所等の空気調和の管理                  政府の推奨する冷暖房温度（冷房は28度、暖房は20度）を目標に居室の                  用途に応じた設定にする。                  事務用機器の管理                  不要時は電源を遮断する。                  照明設備の運用管理                  ランプの交換時期に合わせた、節電型ランプへの交換を推進する。                  照明器具等の更新の際には省エネ型を採用する。</p>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第3号該当者等)</p>	

## (2) 再生可能エネルギー等の利用計画及び前年度末における利用実績

## ア 再生可能エネルギー等の利用に係る考え方

省エネによるCO<sub>2</sub>削減を主に考える。一方で植物性残渣が事業場から発生するため、バイオマス発電等への活用について検討中である。実現できればCO<sub>2</sub>の削減に貢献できるものと考ええる。  
また、今後は太陽光等の再生可能エネルギー等の導入についても検討していく。

## イ 再生可能エネルギー等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

## ウ 再生可能エネルギー等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

## (3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

直近の省エネルギー関連の設備投資は下記のように実施してきた。  
 コージェネレーション導入(平成18年度) 高効率ガスエンジン、高効率ボイラーの導入  
 高効率冷凍設備導入(平成20年度)  
 インバーター式コンプレッサー導入(平成21年度)  
 廃熱有効利用(ガスエンジン廃温水活用)(平成21年度)  
 また、工場各課では省エネプロジェクト活動を2008年度から開始し、約450件の改善を積み上げ、結果として、2009年度は前年比14%のCO<sub>2</sub>を削減した。現場のひとりひとりが苦労して知恵を出し大きな成果につながった。

【CO<sub>2</sub>排出量実績】

2005年度	148	千ト
2006年度	139	
2007年度	127	
2008年度	123	
2009年度	106	

## 6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

・グループ企業や他社との共同配送およびモーダルシフトの推進  
配送拠点の集約、グループ企業や他の食品メーカーと共同配送を推進し、2009年度は輸配送に伴うCO2排出量を原単位で前年比2.5%削減した。また、鉄道コンテナ輸送を1995年から本格的に導入し、2009年度のモーダルシフト率は43.8%を達成した。  
今後も、荷主の義務としてCO2排出量を年1%削減に取り組む。

## 7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

1. 植物性残渣の活用
  - ・製造工程で発生する植物性残渣をセメント工場の燃料として供給し化石燃料由来のCO2発生抑制に貢献しており今後も継続する。
  - ・新たな有効利用方法としてバイオマス発電燃料としての活用の検討を継続する。
2. 廃棄物の減量化・分別化の推進を図る。
3. 廃棄物の有効利用を促進する。
4. 包装容器3R推進
  - ・味の素㈱では「容器包装3R推進計画」を策定し2007年4月より運用を開始している。
  - ・2009年度は対前年度で約1000トン削減した。2010年度も2004年度対比でプラスチック原単位3%、紙原単位2%削減を目指し取り組む。
5. 他の者に対する環境負荷低減の取組の要請
  - ・運送委託業者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施を要請する。
6. 飼料用アミノ酸の利用による温暖化防止への貢献
  - ・CO2の300倍の温室効果を持つN20の発生原因のひとつである家畜の排泄窒素量が軽減できる。この効果を伝え普及させることで地球温暖化防止に貢献していく。

様式第 1 号

( 第 7 面 )

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

( 1 ) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

125,193	t-CO <sub>2</sub>
125,179	

イ 第 3 号該当者等

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

( 2 ) 事業所等单位 ( 第 1 号、第 2 号該当者等 )

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kI 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
味の素株式会社川崎事業所	川崎市川崎区鈴木町1-1	0949	その他調味料製造	125,115 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kI 以上 1,500kI 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kI 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400 ~ 500kI 未満	
300 ~ 400kI 未満	
200 ~ 300kI 未満	
100 ~ 200kI 未満	
100kI 未満	1

( 3 ) 事業所等单位 ( 第 4 号該当者等 )

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 ( 二酸化炭素換算 ) が 3,000 t 以上 ( 二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。 ) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 ( 二酸化炭素換算 ) が 3,000 t 未満 ( 二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。 ) の事業所の数

事業所数	
------	--